

# Life Design Focus

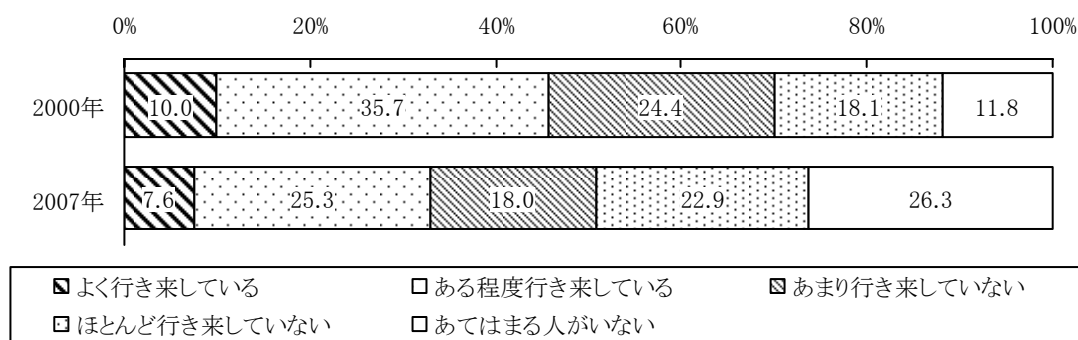
## 地域社会の教育力向上に向けて

第一生命経済研究所 ライフデザイン研究本部 研究開発室 的場康子

### <地域社会における人間関係の希薄化>

「地域社会の教育力」の向上は、わが国の子育て支援政策における一つの柱となっている（「子ども・子育てビジョン」2010年1月閣議決定）。その背景にあるのは、少子・高齢化や核家族化、働く母親の増加等により、地域社会に対する意識が変化し、地域社会における人間関係の希薄化が進展していることなどである。例えば、他のライフステージの人々に比べ、子育て層は比較的、子どもを通じ、地域社会とのつながりがある生活をしているとみなされてきたが、最近では、子育て層であっても、その交流状況が希薄化しているという傾向がみられる（図表1）。

図表1 子どもを通じた付き合いの推移



資料：内閣府「平成19年版国民生活白書」

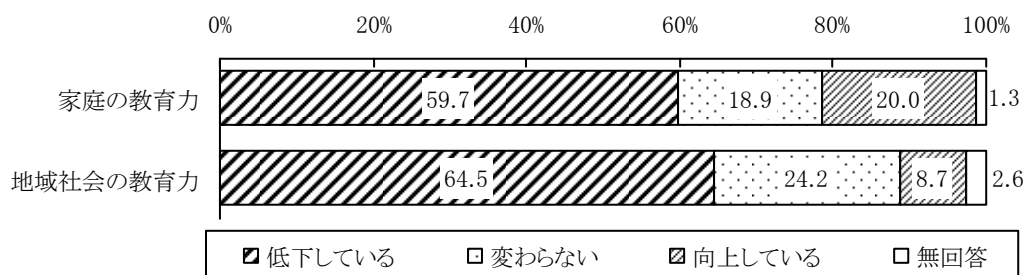
こうした中、子どもは家庭や学校のみでなく、地域社会を含め社会全体で育てるという意識の醸成が必要という理由から、上記の通り政策目標に掲げられたわけであるが、実際に子育て中の母親は、「地域社会で子育てをする」ということを、どのようにとらえているのだろうか。本稿では、小学生の子どもを持つ母親を対象に実施したアンケート調査結果から、当事者である母親が「地域社会の教育力」についてどのように認識し、その向上のために何を必要としているのかを紹介する。これを踏まえて、地域で子どもを育てるという意識を「育てる」ためにどのようなことが必要かを考えたい。

### <家庭及び地域社会の教育力に対する認識>

まず、現在、小学生の母親は、自分の子ども時代と比較して、現代社会における家庭及び地域社会の「教育力」（子どもの発達段階に応じ、健全育成のために適切な働きかけを行う力）をどのように認識しているのだろうか。図表2をみると、「家庭の教育力」、「地域社会の教育力」ともに、自分の子ども時代と比較して「低下している」と回答した割合が約6割を占めている。

しかも、地域社会の教育力が低下していると答えている人の多くは、家庭の教育力も低下していると答えている（図表3）。まさに、家庭の教育力と地域社会の教育力の変化は、それぞれ単独でとらえるのではなく、関連付けて考えることが必要であることを示しているといえよう。

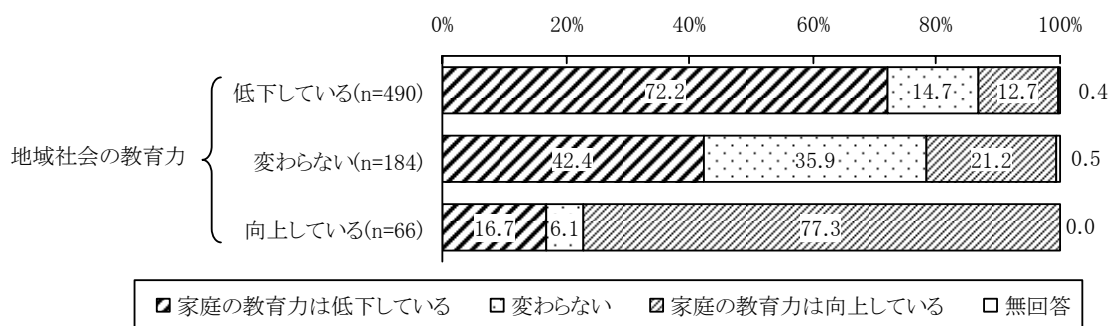
図表2 家庭及び地域社会の教育力についての過去との比較意識



注：本調査は全国の小学生の子どもを持つ母親800名（当研究所生活調査モニターより抽出）を対象に、2009年9月に実施した（有効回収数760名、有効回収率95.0%）。

資料：第一生命経済研究所「小学校母子の地域とのかかわりと教育に関するアンケート調査」2009年

図表3 家庭の教育力についての過去との比較意識（地域社会の教育力についての意識別）



資料：図表2に同じ

### <なぜ、家庭の教育力が低下していると思うのか>

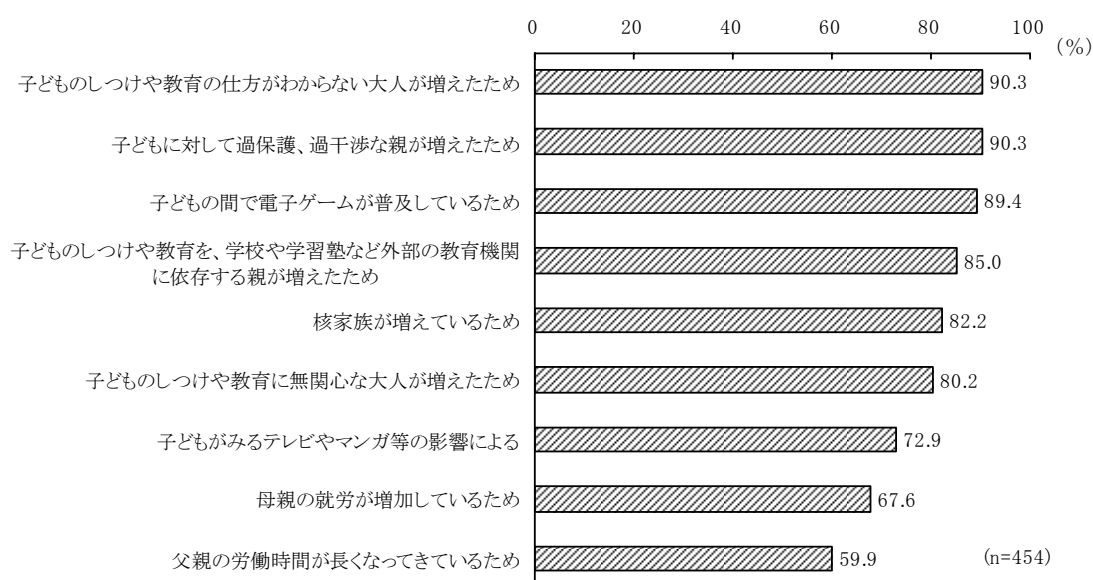
次に、なぜ、家庭及び地域社会の教育力が低下していると思うのか、「低下していると思う理由」をたずねた結果をみる。

はじめに、家庭の教育力低下の理由をみると、「子どものしつけや教育の仕方がわか

らない大人が増えたため」(以下「子どものしつけ等がわからない大人の増加」と「子どもに対して過保護、過干渉な親が増えたため」が90.3% (「あてはまる」と「まああてはまる」の合計、以下同様) で同率1位となっている(図表4)。以下、「子どもの間で電子ゲームが普及しているため」が89.4%、「子どものしつけや教育を、学校や学習塾など外部の教育機関に依存する親が増えたため」が85.0%、「核家族が増えているため」(以下「核家族化」)が82.2%等と続いている。

家庭の教育力低下の理由として、現代の大人や親に責任があると思っている人が多い一方で、電子ゲームの普及や核家族化といった、自分の子ども時代とは異なる現代社会の特性が影響を与えているとの見方をしている人も多いことがわかる。

図表4 家庭の教育力が低下していると思う理由



注：家庭及び地域社会それぞれについて教育力が「低下している」と回答した人を対象に、その理由を「あてはまる」「まああてはまる」「あまりあてはまらない」「あてはまらない」の4段階でたずねた。数値は「あてはまる」と「まああてはまる」の合計である。

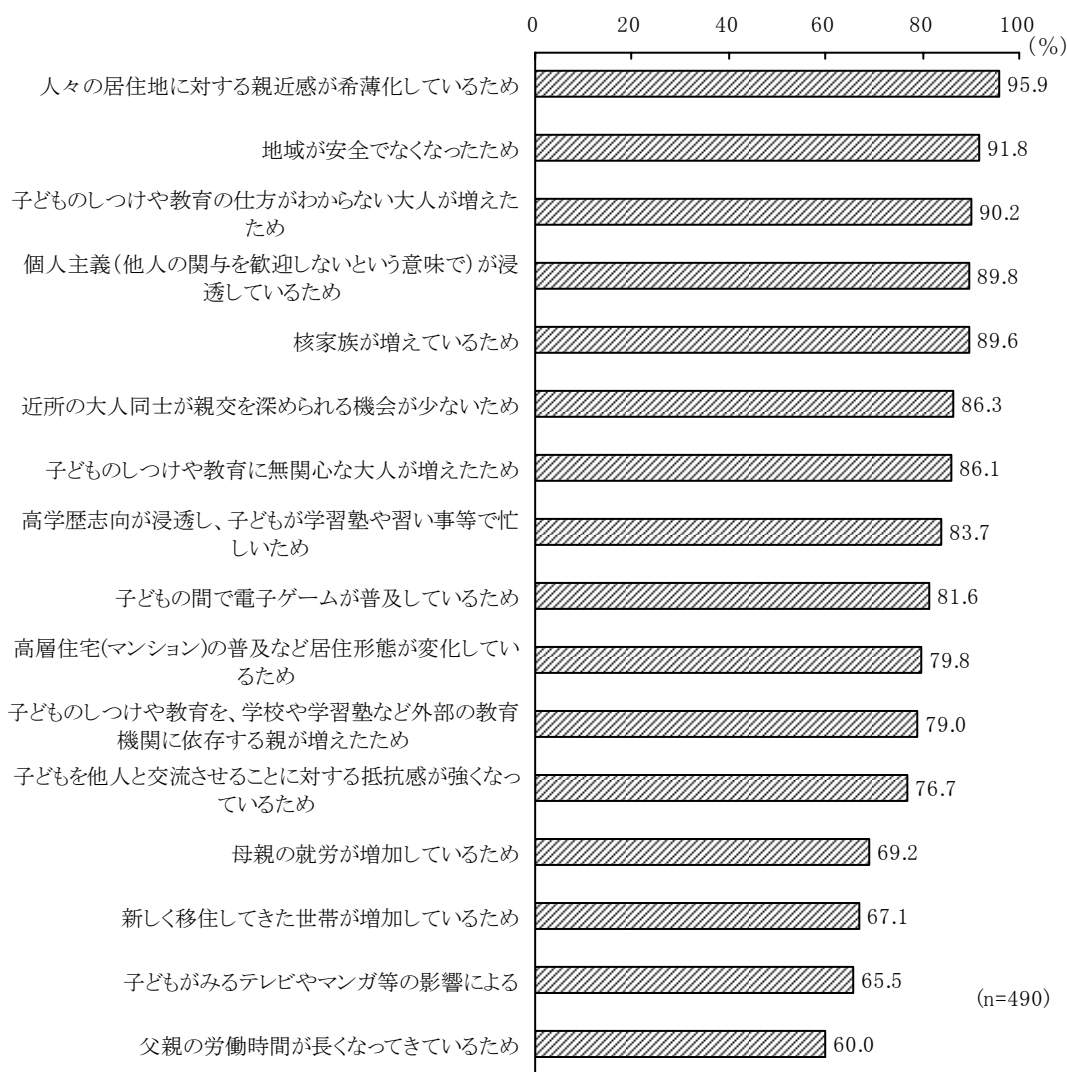
資料：図表2に同じ

ここで、自由記述欄に寄せられた意見をみると、「自分の子育てに自信がない親が増えている」や「(親自身が)きちんとしつけや教育をされていない人が多い」といった、図表4の第1位の項目と似たような意見が目立っており、「親に対する再教育」や「アドバイス」を求めている。また、「個人主義の浸透」や「自分中心の親の増加」といった意見のように、親の自己中心的な態度の蔓延が「家庭の教育力低下」に影響していることを指摘する声も目立った。ちなみに、「自己中心的な親」には、「(自分の趣味等を優先するなど)自分の子どもに対する自己中心的な側面」と、「(自分や自分の家族さえよければよいという)他人に対する自己中心的な側面」の二つの見方があることがみてとれる。

家庭の教育力が低下している理由(自由記述)

- ・自分の子育てに自信が持てない親が増えていると思います。その不安について、信頼できる目上の人からのアドバイスや親自身がほめてもらうことが少ないように思います。
- ・きちんとしつけや教育をされていない人が多く、その世代が親になっているために、今の子どもの鏡になる人がいない。親の世代からの再教育が必要。
- ・個人主義が浸透したこと、親自身が自分たちの生活で精一杯で、きめ細かに子どもを見る力がなくなってきているように思う。
- ・親が自分の趣味などを優先させ、子どもとの時間を減らしている。
- ・自分さえよければそれでいいというような考えを持った人が多いように思う。
- ・自分の家さえよければそれでいいという親が増えている。

図表5 地域社会の教育力が低下していると思う理由



資料：図表2に同じ

### 〈なぜ、地域社会の教育力が低下していると思うのか〉

続いて、地域社会の教育力低下の理由をみると、「人々の居住地に対する親近感が希薄化しているため」が95.9%で第1位であり、以下、「地域が安全でなくなったため」が91.8%、「子どものしつけ等がわからない大人の増加」が90.2%、「個人主義（他人の関与を歓迎しないという意味で）が浸透しているため」が89.8%、「核家族化」が89.6%等となっている（図表5）。

自由記述欄をみても、「個人主義の浸透」「近所づきあいの希薄化」「他人の子どもを叱れない」などの意見が目立っており、地域の大人が子どもを見守ろう、育てようという意識が薄れ、「個人主義化」への傾向がみてとれる。

また、家庭の教育力低下の理由として上位であった項目、「子どものしつけ等がわからない大人の増加」と「核家族化」が、地域社会の教育力低下の理由の上位にも含まれている。人々の居住地に対する親近感の希薄化や個人主義化、地域の安全への不信といった、現代の地域社会に関する特性だけでなく、家庭の教育力低下を引き起こしていると思われるものも、地域社会の教育力低下の要因と思っている人が多い。この点においても、先述したように、家庭の教育力と地域社会の教育力について、互いに関連付けて考えることが必要であることを示しているといえる。

#### 地域社会の教育力が低下している理由(自由記述)

- ・地域の大人が子どもを見守ろうという気持ちが薄れてきた。
- ・周りに無関心であったり、ご近所づきあいの希薄さがある。
- ・他の子を叱ることに抵抗を感ずし、逆恨みされそうで怖くていえない。
- ・他人の子どもを叱れない大人が増加した。
- ・個人主義が浸透しすぎた結果、他人にはふみこまない、近づかない。
- ・個人主義の浸透もあるが、必要な情報はインターネットで得られるようになった。

### 〈地域社会の教育力向上のためには何が必要か〉

最後に、地域社会の教育力向上のためには何が必要であると考えているのか、自由記述で得た意見からうかがうことのできる子育て中の母親の「思い」を紹介する。

地域社会の教育力向上のために必要だと思うことについて、多数の意見が寄せられ、この問題について母親の関心が高いことがうかがえる。実際に寄せられた意見は多岐にわたるが、大別すると、「地域の安全確保」「地域社会の人との交流」「地域の社会的資源の活用」などに分けられる。中でも、親同士あるいは高齢者等、地域に住む人々との交流が必要との意見が目立ち、それを実現させる場として、学校や公民館、児童館等の有効活用の必要性を求めている。また、そのように地域に住む人々との交流が促進されることで、地域の安全確保にもつながることを期待している。

しかしながら、こうした地域社会での教育力向上に前向きな意見がある一方で、「個人主義の浸透」等により、「社会全体での子育ては無理である」との意見も目立ち、そもそも地域社会の教育力向上を期待していないという人も少なからずいることがわか

った。また「地域社会の教育力向上の前に、まずは家庭の教育力向上が必要」との意見も散見された。「自分の子どもの教育は各家庭が責任を持って行い、その上で地域社会での教育を行うべき」との主張である。実にもっともな意見であるものの、これがもし「自分の子どもは自分で教育すべき」ということを強調するものであれば、「個人主義化」がますます進むことが危惧される。

#### 地域社会の教育力向上についての意見(自由記述)

##### <地域の安全確保>

- ・地域で子どもが安全に遊べる場所の確保が必要。
- ・子どもたちが安心して遊べる公園や広場が少なくなった。ボール遊び禁止の公園があり、のびのびと遊べない。
- ・学校からの不審者情報がある。地域の安全に不安がある。

##### <地域社会の人との交流>

- ・親が積極的に地域社会に関わらなければ地域社会の教育力向上には結びつかないと思う。PTA 活動や学校行事に参加することによって地域の人と接する機会が増える。
- ・年配の方と子どもが交流できる場所がもっとあればいい。
- ・地域に子ども会があり、運動会や敬老会では地域の人との交流があり、教育力の向上に役に立っている。

##### <地域の社会的資源の活用>

- ・学校が地域社会の交流の拠点としての機能を果たすべきである。
- ・放課後の補習を希望する。
- ・学校の図書館や校庭や体育館、プールなどを開放してほしい。公園以外に外で安心して遊べる場所がない。雨でも安全に安心して遊べる場所が必要。
- ・地域の公民館などで、イベントや習い事等をできるようにしてほしい。
- ・児童館のような放課後に子ども達が集えるような場所がほしい。
- ・放課後児童クラブを増やしてほしい。

##### <その他>

- ・地域社会の教育力向上の前に、まずは家庭の教育力向上が必要である。
- ・「社会全体で子育て」以前に、家庭での教育、しつけが一番と思う。
- ・みんな自分のことで精一杯で、地域で子育ては難しいと思う。
- ・昔と違い、個人主義が多様化しているため、社会全体で子育ては現実には難しい。

先述したように、地域社会の教育力と家庭の教育力は切り離して考えるべきではない。学校のほかに、家庭と地域社会も補完しあって、子どもの成長を支えるべきである。実際に、家庭の教育力向上のために、地域社会の人に教育や子育てのアドバイスを求める声もあった。こうした意見を尊重し、交流の場として学校や公民館など、既存の地域社会資源の有効活用が求められる。このようにして、多くの人が家庭内に閉じた子育てでなく、地域社会の人々との交流を通じて開放した子育てを行うことができることで、地域社会の教育力向上が図られることを期待したい。

(まとば やすこ 主任研究員)